

平成30年第1回

湯梨浜町総合教育会議

会 議 録

平成30年度第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

日 時 平成30年10月16日(火) 午後3時30分 開 会
場 所 湯梨浜町役場 第3会議室
出 席 者 宮脇正道(町長)
土海孝治(教育長)、岩本恭昌(教育長職務代行者)、青木由紀子(教育委員)、松田基宏(教育委員)
説明の為出席した者 岩崎正一郎(教育総務課長)、丸 真美(生涯学習・人権推進課長)、青木さとみ(羽合学校給食センター所長)、伊藤和彦(東郷学校給食センター所長)、宮脇一善(中央公民館長)、杉村和祐(図書館長)、池田豊具(教育総務課長補佐)、尾崎寿彦(教育総務課長補佐)、岸田和久(指導主事)、岩本綾子(指導主事)

1. 開 会

2. 町長挨拶

3. 会議録署名委員の指名

() ()

4. 議 事

①ICT環境整備について

②学校業務改善の取り組みについて(部活動指導員の配置)

③泊地域の文教施設について

5. その他

6. 閉 会

平成30年第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

発言者	内 容
教総課長	平成30年度第1回湯梨浜町総合教育会議を開会します。それでは町長からご挨拶をお願いします。
町長	皆様、ご多用のところお集りいただきましてありがとうございます。教育の方も、国の方針がいろいろと変わったりして大変ではございますが、湯梨浜の子どもたちをしっかりと支援したいと思います。皆様のご意見を伺いながら進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。
教総課長	会議録署名委員ですが、岩本委員と青木委員をお願いします。
岩本委員 青木委員	はい。
教総課長	それでは今後の進行は、町長をお願いします。
町長	それではICT環境整備について説明をお願いします。
尾崎補佐 岩本指導主事	ICT環境整備について説明
町長	今後5年間で文科省の水準を満たすということですね。これまで電子黒板は地方創生で買ったものはありませんか。
尾崎補佐	あります。現在のところ、今年度購入予定のものとプロジェクターと合わせますと59台あります。まだ電子黒板は少ないですし、全部の教室には設置していません。
町長	ICTの環境整備について、現場の先生はどう思われますか。
岸田指導主事	可能性は広がると思います。
町長	以前、県議会で、これからはもう黒板なんて要らないと話題になったとき、県の教育長をされていた方が、正しい筆順を覚えたり、板書も大切なことですと仰っていたことがあり尊敬したことがあります。教材の内容によって使い分けて使うということですね。
教育長	いくつかの課題があります。今の学習指導要領の中でも情報教育をやりましょうということがあり、例えば、小学校では10分間に200文字程度の文字入力をしましょうとか、文字、写真、表、グラフ等を組み合わせて自分の意見を表現できるようにしましょうとかありますが、これがなかなかできていません。先ほど指導主事ご紹介したのは東郷小学校の事例で、これは情報教育のリーダー的な先生がされているものですが、やはり他の先生方が、このようなモデル授業を見て展開されていくことが大切です。また、子どもたちにこれらの機器を活用する力をどこで身につかせていくかですが、特に情報教育という教科はないものですから、総合的な学習とか教科の中で使っていくかということになり、少しずつ先生方にこんな使い方ができるということ、体験していただくようにしたいと考えていま

平成30年第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

発言者	内 容
	す。プログラミング教育が必修化となりましたので、これらの機器の充実をしていただけたらと思います。
町長	先生方の研修も必要となってきますね。
岩本指導主事	そうです。先ほど教育長が言われたように、他の先生の授業を見たりして、どのように使っていくかなどの研修が必要となります。
町長	大変になりますね。
教総課長	昔は DOS を利用した難しい内容でしたが、先ほどのスライドでもありましたように、今の小学校では、文字を組み合わせで1つのプログラミングをするといった授業を行っており、子どもたちにも分かりやすい内容となっています。
町長	文科省は、機器整備に予算をつけるということですね。
教総課長	たぶん最初は計画を作りなさいということになると思います。その計画に沿って、たぶん1年くらい前から要求してきなさいといった形になると思います。
町長	先生方は、夏休みに講習会をされるようになるかもしれませんね。
教育長	県の方もかなり力を入れられておまして、教育センターの方ではタブレットを準備されており、希望があれば各学校に出かけていきますよという体制を整えています。今後は、現場の意識の高める環境を作っていかなければなりません。
町長	英語を早くから教えるのが良いのか悪いのかという意見もありますが、ICTについても、例えば、生物でも実際に現場に行き行って魚を見るということも大切でしょうし、その場ですぐにできてしまうような形が良いのか悪いのかもありますね。
岩本委員	もう世の中の仕組みが、そうになっていますね。ただ、こちらがなかなかついていけないだけで、これらの機器に対応できない教員は大変です。でも、習うより慣れろのようにすぐに覚えられると思いますよ。確かに便利になります。必要悪もあるかもしれませんが、世の中の流れとして取り組まざるを得ないといったところまで来ていると思います。
青木委員	国の指針で進んでいくのですから、湯梨浜の子どもたちも乗り遅れないようにしていただきたいです。
松田委員	今後はこのような時代になっていくと思いますので、環境を整備しなければならないと思いますが、先生の負担が増えることをどう解決していくかもあります。
町長	それでは基本的には進めていくという方向でいきたいと思います。続きまして、学校業務改善の取り組みについて（部活動指導員の配置）に

平成30年第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

発言者	内 容
	ついてお願いします。
岸田指導主事	学校業務改善の取り組みについて（部活動指導員の配置）を説明
町長	最終的には、どういう姿を目標とされていますか。未経験の先生が担当することがないようにといったところまでなのか、計画的にはどのくらいを充足させようと考えていますか。
岸田指導主事	現在考えているのは、バドミントン、剣道、柔道、バスケットボール、ソフトテニスです。
町長	その他の種目は、学校の先生で不都合をきたすものではないということですか。
岸田指導主事	来年度の教員の配置により変動しますが、現在の状況ではこれらの種目が必要です。
教育長	今の学校の先生で指導が難しいのは、柔道とバドミントンです。剣道については、教頭、校長クラスはおられますが、若い先生は少ないです。
町長	文科省が12,000人と言っているようですが、湯梨浜町でいくらが目標かというのははっきりしていないということですか。
岸田指導主事	文科省が各学校に3名程度というのがあります。
町長	それは1回限りですか。
岸田指導主事	年次的に配置していくことになります。
町長	現在、湯梨浜町では40%しか配置されていないということですから、60%の数を配置することが究極の目標ですか。すごい数ですね。
岸田指導主事	チーム学校という考え方が出されており、例えば、スクールソーシャルワーカーだったり、スクールカウンセラー、学校業務アシスタント、そして部活動指導員だったり、このようないろいろ専門家を学校に置いて役割分担をしながら、教員は本来の役割を担えるよう業務改善を行うなど、学校の組織力を高める取り組みを行うことが求められています。
町長	先ほどの部活動を指導されている5名の方とは、どういう立場の人ですか。
岸田指導主事	バスケットボールですが、北浜中は教員OBで、ご自身もずっとバスケットボールをやっておられ、今年も鳥取県で唯一中国大会で一勝をあげた成績を残されました。東郷中の方もずっとバスケットボールをやっておられた方で、スポ少も指導にもあたっておられます。野球は地域の方ですが、長く野球をやっておられるだけでなく、地域の運動推進員もやっておられ、地域にも声をかけながら良いチームを作っておられます。バレーボールは教員OBで中学時代からバレーボールをやっておられる方、ソフトテニスは地域のクラブでも指導をされている方です。
岩本委員	高校で対応しようとしているのは、部があるところは顧問をつけなければ

発言者	内 容
	<p>ならないので、未経験の先生や技術が不足する先生がおられた場合、そこにつけていこうかということですね。全部働き方改革でつけようとする膨大な数になりますが、この学校はこれを強くしようといった考えもあります。ただ、高校の場合は、先生が引率しないと生徒が試合に出れないとか、経験があっても資格を持ってないと監督ができないといった競技があります。また、部活動を学校でやるということですが、例えば、ヨーロッパでは地区にクラブがあってそこでやっていますし、学校がやるのが間違いではないですが、無理はありますね。ただ、高校では、部活動に一生懸命取り組まれる教員もたくさんおられまして、そこに補助する指導員をつけたりすると、指導法や考え方が違ったりして、逆に軋轢が生まれて悪くなることもあります。だから、働き方改革で時間数を減らしていくのと、学校として部活動を強化していくのは、分けて考えないといけないと思います。</p>
町長	<p>資料にある新聞記事を見ますと、これは明らかに働き方改革の方だと思いますね。</p>
教育長	<p>スポーツ庁が出している資料がありますが、そこには部活動は学校教育の一環、教育的意義が大きい、これまでの運営体制では維持が難しく学校や地域によっては存続の危機にあると記載されています。これまでは、外部指導者は先生方の技術的な部分をサポートしようということでしたが、教員の業務削減面を強化していくためには、部活動は指導員に任せますよというやり方です。ただ、これには大きな課題がありまして、指導員には、先生と同じように研修を受けていただいて適正な指導ができるようにといったことが大切になります。今、考えているのは、部活動指導員と先生と一緒に生徒に指導にあたると、例えば、会議等で部活動に参加できないときは指導員にお願いするとか、連携をしながらやっていくということです。人数的には20人も30人もというわけにもいきませんので、当面は補助金がいただけるような範囲内からスタートして、徐々に指導員も研修を受けていただいて、充実していきたいと考えています。ただ、このような研修も市町村レベルでは難しいと思いますので県に機会を設けていただきたいですし、校長先生にとっても、研修を受けた指導員でないと子どもたちを預けにくいと思います。</p>
町長	<p>基本的には、子どもたちには、より良い指導者に指導してもらいたい観点から指導員をあてたいということと、働き方改革では時間外の削減ということですね。</p>
岸田指導主事	<p>他県ですが、生徒指導の先生は夕方に会議が入ってくる人が多いので、</p>

平成30年第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

発言者	内 容
	そこにあてているといった取り組みをしているところもあります。
町長	とりあえず来年は3名ということでよろしいですか。
教育長	現段階では、バドミントン、柔道、剣道は、教員の確保が難しいところがありますね。
町長	子どもたちは、良い指導者の下で指導してもらえるのがいいと思いますね。
青木委員	予算的なことになりますが、その指導員を配置することによって先生の時間外は減るといえることですね。そこはきちんとしておかないといけませんね。
町長	それは難しいかもしれませんね。やはり嘱託と正職員となると、正職員である先生の責任は重い部分があると思います。
岩本委員	時間外は、部活動と別なところで増えているのではないですか。私は働き方改革とは質だと思っていて、部活動を悪者にするのはよくないと思いますね。元々削るべきところは、他にあるはずで。本来は、校長が早く帰れということで電気を切れればいいだけの話で、そうすると自ずとそれまでにやっつけなければならぬ機運が生まれてくるのであって、今は野放し状態となっているのが原因です。これらの問題と部活動は、別物として考えていかないといけないと思います。
町長	スポ少を指導している宮脇館長はどのように思いますか。
宮脇館長	先生や地域の方が教える利点はそれぞれありますので、どちらがいいのか判断しにくいですが、これまでの経験から、教えた子どもたちが地域に残って、その子どもたちと一緒にスポーツができたり、違う関りができたりといった部分では、地域の方が教えるメリットは大きいものがあると思います。
松田委員	先生にとって、経験のない種目を指導することは、かなりのストレスだと思います。今は保護者がプレーに関していろいろと言うこともあり、先生は監督であって監督ではないようなときもあると聞いたことがあります。
町長	いずれにしても、これは最優先で進めて行こうと思っています。 続いて、泊地域の文教施設についてお願いします。
宮脇館長	泊地域の文教施設について説明
町長	公民館の老朽化と建て替えについては、町長部局でも急ぐことだと認識しておりまして、小さな拠点づくりとの兼ね合いもあって、どのような利用をするかなどを検討しているところです。また、議会でハコモノを建てたりするときどういう順番を考えているかとか聞かれたときに、まずは公民館を最初にすべきだろうと説明したこともあります。ただ、住民の意見を聞いてから図面等を提案するようにはしていただきたいと思います。それ

平成30年第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

発言者	内 容
	と歴史民俗資料館ですが、鉄筋コンクリートと書いてありますが、耐用年数は30年ですか。短いように思えますが。
宮脇館長	財務の台帳から拾ったものです。
生人課長	すいません。施設カルテで財政が作ったものは50年です。
町長	そうですね。
教総課長	用途によって違いますが、鉄筋コンクリート造りで一般的なのは47年や50年ですが、一番短いもので34年、雇用促進住宅関係ですと、そちらの法律で70年となります。
町長	これについては、早急に進めて行きたいと考えています。青少年の家ですが、青年の研修施設という位置づけだけでは、改築して建てる必要はないと思っていますし、また、東郷中学校の跡地利用がどうなるかわかりませんが、東郷運動公園の利用の状況や、合宿したりする子供たちや高校や大学生も多いので、そのあたりの受け皿としても何か考えることもあろうかと思えます。
岩本委員	民俗資料館は、羽合、泊、東郷とあって、どこも人が入ってないですね。もったいないし、湯梨浜町の中には、特にここに行ってみたいというところもないと思いますので、收藏されているものを1か所に集合させて湯梨浜の資料館として展示した方がいいと思います。
町長	ただ、それぞれ收藏している物の色合いが違うんですね。
生人課長	羽合は主に埴輪や鉾ですし、泊は民俗的なものですし、東郷には資料館はなく、中央公民館の中に国宝の経筒や、ロビーの隅にガラス張りのスペースがあって土器などが置いてある程度です。また、今年の4月に泊の漁業関係資料が県の有形民俗文化財に指定されたので、例えばそういうものを主としてピックアップして展示し、小学生や訪問された方などの目に触れていただくようにするなど、文教施設として有効的に活用したり、相乗効果を得たりすることができないかと思っています。
岩本委員	今、分かれて設置してあるものを1か所にまとめ、コーナーを設けて設置すれば、いろんな方が来られ、自分の興味があるものをご覧いただくことができます。集客の面で言えば、有効的な方法かなと思いますし、観光客の方にも、そこに行けばだいたい湯梨浜の歴史がわかりますよといった案内もできます。
町長	北栄みらい伝承館は、どういった造りになっていますか。
生人課長	詳細はわかりませんが、学芸員がおられて案内されているようです。
岩本委員	やはり説明ができる学芸員は置きたいですね。
青木委員	羽合歴史民俗資料館は、観覧は可能でしょうか。

平成30年第1回湯梨浜町総合教育会議 会議録

発言者	内 容
生人課長	お客さんが来られたら、職員が資料館に行って説明するようにしています。羽合の資料館には、それなりにお客さんは来られています。
青木委員	羽合の資料館は本庁所となりですし、そこに湯梨浜のものを全部集めて展示することはできませんか。
生人課長	スペースがありません。
青木委員	そこを工夫してすることはできませんか。北栄町はちょっと片づけられたではないですか。
生人課長	オークションをされていましたが、民俗系のはできますが、文化財はできません。
町長	泊地域の文教施設関係については、積極的に進めていきたいと思います。以上、本日、議事として提案していただいた件については、全て来年度予算において取り組んでいきたいという気持ちでいます。それでは、その他で何かありますか。
教総課長	ありません。
町長	以上で総合教育会議を終了します。
午後5時10分終了	